

みちのく八戸国体開幕



〒030-0180
青森市第二問屋町3丁目1番9号
東奥日報社
電話 017-739-1111
(C)東奥日報社 2009

インターネット
号外

ご購入のお問い合わせは
東奥日報社読者局



0120-4615939

ヨム

コウドクサンキュー

精鋭1800人集う 市公会堂で開会式

「北の水都(まち) 若き躍動さわやかに」をスローガンに、第六十四回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「みちのく八戸国

体」が二十八日、八戸市、三沢市、南部町で開幕した。皇太子さまをお迎えして八戸市公会堂で行った開会式には、各県選手団ら約三百八十人が

参加。五日間の熱戦が幕を開けた。本県での冬季スケート国体開催は全国最多となる十一回目、今大会には、本県選手



旗手の在家範将選手を先頭に堂々と入場行進する本県選手団代表

団九十五人を含む四十四道府県の選手・役員ら約千八百人が参加。開会式は経節減のため、同市で開かれる冬季スケート国体として初の屋内開催となった。午前十時半前に皇太子さまが会場に到着されると、観客席からは大きな拍手がわき起こった。入場行進では、市内高校の吹奏楽部と合唱部の生徒が演奏する行進曲「RIN G O」に合わせ、沖縄県選手団を先頭に南から北の順で各県選手団が入場。北海道に続き、本県旗手の在家範将選手(八戸商出、日大)ら六人の本県選手団が最後に姿を現すと、割れんばかりの大歓声が会場を包んだ。皇太子さまが選手激励の言葉を述べられたのに続き、本県の石岡守選手(吉田産業)と松尾佳枝選手(八戸西出、信州大)が力強く選手宣誓した。競技は、アイスホッケーが開会式に先立ち八戸市などで始まり、フィギュアは正午から三沢市でスタート。スピードは二十九日から、ショートトラックは三十一日からそれぞれ始まる。

詳細は夕刊で